

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 11 月 28 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200023		
法人名	社会福祉法人広島良城会		
事業所名	グループホームさくら		
所在地	広島市安佐南区大塚西3丁目11-14 (電話) 082-848-9100		
自己評価作成日	平成28年10月28日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200023-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200023-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年11月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"><li>・さくら療養センターは、グループホームの他に、ショートステイ、デイサービスが併設されており、同事業所内でサービスの利用に慣れて頂きながら入所して頂く事ができます。</li><li>・協力病院の主治医により、週2回の訪問診療が行われており、また24時間体制で緊急対応を行っています。そのため、健康面に不安のある方も安心して生活する事ができます。</li><li>・馴染みの暮らしを継続して頂くため、様々な家事に取り組んで頂くなど、家庭的な雰囲気を大切にしています。</li><li>・施設内では、運動、レクリエーション、外出行事等に取り組み、又積極的に地域行事へ参加をして、利用者様にとって生きがいのある楽しい暮らしを提供しています。</li><li>・地域住民の方とは施設内外の行事や運営会議において関係や繋がりが強く、事業所への理解、応援を頂いています。</li></ul>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>この1年間の特徴的な取り組みとして、第一に、理念の刷新である。開設10年目を迎え、職員で事業所理念を見直し、「複数の担当職員で案を考え、適切且つ浸透しやすい内容を吟味して職員全員に諮り、決定」した。新たに作成したもの（「その人らしさ」と「笑顔あふれる暮らし」の支援）を、掲示し、申し送り時に唱和して、ケアの深化に繋げている。第二に、地域の利用者・事業所との交流の促進である。地域の4つの福祉事業所・施設と交流を図り、合同で利用者対抗風船バレーボール大会を行い、昨年度は優勝の実績を残した。その大会で対戦した事業所から転居された利用者の提案で、日課に風船バレーボールの練習時間を取り入れた経緯もある。第三に、運営に関する家族参加の促進である。例年のお花見行事に、今年初めて、お孫さんも含め、4家族の参加を見たことである。利用者の普段の生活の実相を伝えることが主となったが、こうした機会を通じて、家族からの意見要望を聴く場としても活用できる可能性を提示できた。</p>
---

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	その人らしさを大切にし、笑顔がいつぱいのグループホームを理念に掲げ、日々のコミュニケーションやレクリエーションを通し、笑顔になれる関わりを心掛けている。	開設10年目を迎え、職員で事業所理念を見直し、新たに作成したものを、事業所内の見やすい所に掲示し、申し送り時に唱和している。また、法人の基本理念・方針に沿って、半期毎の事業所の事業計画、職員の個人目標を策定し、半年毎にその達成度を検証している。事業計画については、未達成項目を朱書きして、次半期に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	施設内行事の折、地域の方達を招待したり、学生ボランティアの人たちとの交流を持っている。今年も複数の施設と対抗の風船バレーボール大会を行った。	事業所は町内会に加入し、他事業所の夏祭りに参加している。納涼祭等、療養センター内3事業所との合同行事には、地域住民が参加している。又、元職員の繋がりで、土笛演奏の訪問や地域の保育園児・学生ボランティアの訪問等、相互交流・世代間交流も為されている。地域の同業者と交流を図り、利用者対抗風船バレーボール大会も行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	外部の方の見学を受け入れ、認知症の方に対する理解を深めて頂ける様、事業所内における取り組みや、特色の説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議を2か月に一回開催している。出席された方より頂く、事業所への助言、要望等は、現場のケアに反映させるよう努力している。	会議は、利用者・家族、町内会長・民生委員・地区自主防災会会長・地域包括支援センター職員等が参加し、定期的で開催されている。会議では事業所の現況・行事報告が、参加者の意見交換・情報交換と共に行われており、例えば、民生委員の提案で「あいうべ体操」という口腔体操を導入、継続している。又、議事録は閲覧可能である。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	実績を伝えている他、市町の職員に対して運営推進会議への参加を呼び掛けている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員も参加し、情報の共有化が図られている。外部評価結果も市担当課に報告し、地域包括支援センター主催の「認知症サポーター養成講座」に職員が講師として協力することも応諾している。市の研修補助事業に参加したり、家族からの苦情や制度の相談をする等、普段から連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>現在、身体拘束は行っていない。やむを得ず身体拘束が必要とされる場合は、職員ミーティングにて、必要の是非の検討、ご家族の同意、経過の記録を残している。</p>	<p>内部研修を通して、職員は「身体拘束をしない」必要性を認識し、ベッドから転落の危険のある利用者には、夜間のみベッドに離床センサーを設置する等の工夫をしている。2、3階各フロアはエレベーターで出入りしており、テンキー・ロック対応である。また、言葉による行動制限も控え、利用者の行動に最後まで寄り添う対応にしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者虐待をテーマにした研修を内部研修として、全職員を対象として、個別に行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>今年度は、権利擁護に関する研修への参加等の制度の理解に向けての、学ぶ機会をまだ設けていない。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入退居時、契約書及び重要事項の内容説明を利用者と家族に行い、同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>相談や苦情を受け入れる窓口を設けており、その内容を詳細に所定の用紙に記載し、全職員に周知を図っている。ご意見を頂き易いように「ご要望をお聴かせ下さい」と記載し、ご家族及び外部の方からの要望を伺っている。</p>	<p>利用者の要望は、日々の職員との会話を通して把握し、家族とは電話連絡や面会時、ケアプラン更新時や運営推進会議等で、職員や管理者から聴くように努め、「連絡ノート」により共有している。親善風船バレーボール大会で対戦した事業所から転居した利用者の提案で、日課に風船バレーボールの練習時間を取り入れた経緯がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員ミーティング時、また随時、職員から日々のケアを通じた気づきや、業務内容の改善など、利用者様のよりよいケアに向けた提案を受け入れている。	毎月の全体ミーティングや随時の個別面談・毎日の申し送りや半期毎の個別面談を通して、意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や個人目標の進捗状況などに対する支援体制をとり、職場環境の整備を図っている。職員の提案により、便座に段ボール製の背もたれや、車いすの座位の補正用に段ボール板を設置した例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回、職員個々の目標とそれに基づく自己評価を確認し、努力した点や成果を認め、新たな課題に繋げて行く取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人外への研修の参加を、随時、職員に促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	事業所交流会の一環として、他のグループホームの見学をおこなった。数名の職員が参加した。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	センター方式のシートを使い、利用者一人ひとりの状態像、生活特性を把握し、これによってアセスメントを行い、課題を抽出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	センター方式のシートを使い、家族の求められている事を把握し、これによってアセスメントを行い、課題を明らかにしている。		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	多くの場合、在宅介護から入所利用への移行及び、退院後の受入れ先として機能している。当施設の入所利用要件に合い、且つ利用者及び家族の入所利用における希望を吟味した上で、サービスの提供にあたっている。		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	個々の能力に応じ、生活支援にあたっている。本人の生活習慣を尊重し、寄り添うケアに心掛けている。		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	利用者の生活の様子を連絡、報告させて頂いている。また、本人の生活歴や特徴など、家族の方から伺い、本人の暮らしを支えて行く上での協力を頂いている。		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	利用者が施設に入所利用される前に繋がりがあった方や、家の近隣の方からの面会をして頂いている。また、地域の方を招き、施設内行事として導入したり、地域行事の参加を通して、馴染みの方との交流の場としている。	「気軽に訪問できる事業所作り」を心掛けており、利用者の近所の人の訪問や家族の協力で、外食や墓参りに出掛けることもある。他事業所から転居した利用者が、近隣事業所との合同交流行事で、以前、利用していた事業所の友人と旧交を温めた例や、レクリエーションで踊りを見て、事業所に友人の日舞のボランティアを紹介した利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	趣味、娯楽活動を通じ、仲の良い利用者同士が過ごせる配慮や、孤立しがちな利用者が交われる機会を作っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所され、他の施設に入所利用された方に対し、面会に伺い、相談にも応じている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの暮らし方の意向を伺い、園内散歩や塗り絵、運動等のレクリエーションや、家事への参加に力を入れて取り組んでいる。	利用時の評価（センター方式「私のなじみの暮らし方シート」）を参考にしたり、利用者の気持ちを大事にし、ゆっくり話す時間を作り、その方の行動を理解して、それを「申し送りノート」に残し、共有している。利用者の「何でも言いんさい。手伝うよ」という意向も踏まえ、洗濯量み等、その方に応じた役割分担をお願いしている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者の方及び、家族の話を傾聴して行く中で把握したり、個々の馴染みの暮らしに合わせた趣味や娯楽を提供している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の観察、記録により、現状や変化の観察に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人のニーズを把握する為、本人、家族の思いを伺っている。生活上の問題点や気付きを、各居室担当毎のスタッフが聴き、随時、新たな取組みを計画に加え、日常生活の中に反映させている。	職員に利用者毎の担当制が敷かれ、その収集した情報を計画作成担当者が集約し、原案を作成している。毎月の職員会議でモニタリング等を行い、半年毎、又は状態特変時に計画の見直しを行っている。元々は、得意な習字が上手く書けず嘆いていた利用者に、週1回の習字を立案し、共感的に支援した結果、その方なりの役割が達成できた例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	生活日誌と個人記録を毎日記録し、情報を共有しながらモニタリングしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホーム利用の前に、デイサービスや、ショートステイを利用して頂く事で、施設の雰囲気に慣れて頂く等の対応を取っている。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個別のマッサージや往診をはじめ、利用者を取り巻く家族や友人、団体との関わりを大切にしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者全員が協力病院を主治医とし、診療を受けている。また週2回の訪問診療と24時間体制で対応している。</li> <li>・利用者の健康状態に関し、看護師と主治医との連携を密に図っている。</li> <li>・他の医療機関を受診時、主治医からの紹介状による、円滑に受診できる支援している。</li> </ul>	利用前の主治医への受診継続も可能だが、全ての利用者は協力医を主治医としている。協力医からは、2週間毎の往診や随時の受診も可能であり、看護師の配置と相俟って、適切な医療が受けられる体制となっている。また、1週間毎の訪問歯科もある。看護サマリーで、他医療機関と連携し、申し送りノート等で職員間の共有を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	介護職員は、常勤看護師と利用者の方の健康状況について、情報の共有化を図り、適切な対処を行っている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	病院関係者との情報交換や相談を行い、家族とも密に連絡を取っている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	重度化や終末期など医療管理が、常時必要となった際の指針を協力病院と話し合っ決めて、契約の段階で家族に説明している。	契約時に事業所としての基本的な方針を説明し、了解を得ている。重度化した際には、本人・家族・協力医と話し合いを行い、できる範囲で適切な支援を行う考えである。基本的には看取りは行わないが、重度化した場合に備えて、介護老人福祉施設等へ申込みの検討を依頼したり、入院により、十分な医療支援体制に取り組む方針である。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	緊急時の対処方法や連絡体制を、マニュアル化し、有事の際に動ける様、文書化して掲示しており、利用者の急変や事故発生時備えている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	今年は8月28日に、大塚・伴南学区自主防災会主催の火災防衛訓練に参加した。	消防署の指導の下、療養センター内3事業所合同で、年2回の避難訓練を夜間想定、利用者参加を含め実施している。又、災害時における地域との協力体制については、地域の自主防災会に加入すると共に、近隣の複数の福祉施設と防災協定を交わし、合同訓練を行っている。災害時には自主防災会との連絡網により、避難誘導を依頼している。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員は言葉遣い、敬語に留意し、会話をする際の視線の位置に配慮している。入浴は一対一で対応し、排泄等のプライバシー空間は、外から視界に入らない様配慮している。	新人研修での接遇研修や内部研修で、職員の幅広い知識の習得を図る体制もあり、職員も利用者目線に対応し、尊厳に配慮出来るようになった。入浴時のプライバシーについても、縦長暖簾を導入して環境整備を図ったり、個人情報の保護についても、鍵付きの職員室で保管したり、記録も1冊のファイルにまとめ、情報拡散を防止している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自己決定が困難な方に対し、選択肢を提示し、自己決定を行いやすい様に働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	時間的な目安として、決まりはあるが、利用者の状況、ペースに合わせた支援に心がけ、取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望により、化粧品を購入したり、毎月、移動理美容車が来て、各々希望のメニューを選ばれている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様の嚥下状態に沿い、食べやすい様に、食事形態を工夫している。食材切りやお盆を拭く片づけなど、役割りとして利用者様に担って頂いている。	法人指定の業者の献立により調理された食材が運ばれ、事業所で加熱・盛り付けを行っている。又、お盆拭き等、利用者にも出来る範囲で手伝いをしてもらっている。おやつレクとして、利用者の好みに配慮したどら焼き・ホットケーキ等を職員と楽しんでいる。更に、弁当持参の花見や近くの福祉施設のレストランで、外食を楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	健康チェック表に、毎食の摂取量を記入している。水分摂取量の観察が必要な利用者様には、水分量を記録している。食事の形状を咀嚼しやすくする為に刻んだり、摂取量が低下している方に対しては、エンシュアを摂って頂く等、栄養バランスの確保に努めている。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	毎食後の口腔ケア及び義歯洗浄を行っている。義歯の方は毎日ポリドントを使用し、口腔内の清潔を保っている。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	トイレ内排泄を基本とし、食前、食後のトイレ誘導を行い、失禁防止を心がけている。日中失禁パンツを使用し、夜間のみ紙パンツを使用する等、個々の状態に応じた支援を行っている。	排泄記録表等により、各人の排泄パターンを把握し、食前、食後のトイレ誘導や夜間のみポータブルトイレを使用している。又、便座に段ボール製の背もたれを設置し、安心して排泄出来る工夫をしたり、退院時にはオムツだった方が紙パンツに改善した例や、夜間排泄時の転倒防止のための離床センサーの導入等、自立に向けた支援も行っている。	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	食事量を把握し、排便状況が確認できるチェック表に基づき、逐一、看護師に報告している。スムーズな排便を促す為の運動を行っている。一定日に排便が確認されない場合には、看護師による投薬を行っている。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	一週間に2回の入浴日を定めている。その他、利用者の情緒や健康状態に応じ、入浴順や、入浴日をずらす対応を取っている	入浴は、週2回、看護師がいる午前の入浴を基本とし、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、対応している。又、利用者の重度化に対応し、利用者の負担軽減のため、シャワー浴や足浴で対応したり、季節によっては柚子湯に浸かり、寛いで頂いている。入浴を単なる保清の場ではなく、コミュニケーションの場としての意識も持って関わっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	就寝時間は、個々の生活習慣に沿う形で対応している。利用者の心身の状況に応じ、日中も随時休息して頂いている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	薬の目的や副作用については、看護師が把握している。介護スタッフは、確実な服薬を行う為、薬袋に記載されている日付け、名前、用法を複数の職員が確認した後、服薬支援を行っている。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	個々の生活歴や、本人の希望に沿い、生活の中での役割りを担って頂いている。何もしない状態が長くない様、レクリエーションの内容を工夫して、取り組んでいる。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	施設外行事や地域行事参加の折に、外出の機会を設けている。また、ご家族の協力を得て定期的な外出及び外泊を行っている。	事業所周辺が坂道のため、日常的な外出は難しいが、季節行事として、初詣の神社参拝、市の老人施設でお花見、平和公園への折り鶴献上等、普段は行けない場所へ外出し、「非日常」を楽しむこともある。又、近隣事業所の夏祭りや親善風船バレーボール大会等の地域行事に参加したり、家族との定期的な外出及び外泊を行っている。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	預かり金は事務所内で保管している。本人、家族が希望される場合、その中から用途に応じて支出している。千円から2千円位である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人からの訴えの頻度と家族の負担を考慮し、電話の希望があった場合には、その要請に対して支援を行っている。手紙や年賀状は、希望された方に対して書いて頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室ドアに防音テープを施したり、共用スペースに、季節をテーマにした手作りカレンダーや塗り絵等の作品を飾っている。遮光カーテンで、日当たり加減の調整を行っている。	事業所は建物の2・3階にあり、ショートステイと繋がる廊下には陽光が差し、良好な眺望が望めるソファもある。ホールには利用者で作った季節のカレンダーや毎月の句会の習字が掲示され、穏やかな雰囲気を感じられる。ホールは、毎日掃除された清潔な空間であり、利用者は洗濯畳みを手伝う等、生活の営みも感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間の配席は、利用者間の人間関係を考慮しており、気の合った利用者同士で会話を楽しまれている。一人で過ごしたい時や休息したい時等には居室を使用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室は、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等、利用者様にとって馴染みのある品の持ち込みをお願いしている。又、ベッドの位置や生活用品の設置場所が障害にならない様、利用者及び家族と相談の上、安全に配慮し、安心して暮らして頂ける様に工夫している。	居室には、ベッド・エアコン・洗面台が備え付けられている。居室には、テレビ・タンス・ハンガーラック等、使い慣れた物、また仏壇やカーブの全試合を見るためのケーブルテレビ等、好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせる様にしている。夜間排泄時、転倒の危険のある利用者には、離床センサーを導入する等の工夫もしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室を認識して頂くための目印や、トイレの貼り紙を入口に貼る等、混乱を防ぐための取り組みに努めている。建物内の生活環境は段差が解消されている。廊下やトイレ内等、随所に手すりがあり、活用されている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームさくら

作成日 平成28年12月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	研修参加の機会が少なく、介護職員のあるべき姿としてのスキルの個人差が伺える。	内部の研修を継続し、職員としてのマナーや言葉遣い、利用者様に対する権利擁護、虐待における認識が全職員に浸透する。	内部研修において必要と思われるテーマを設定し、全職員が参加する。法人外研修にも随時参加し、ミーティングの折に全職員にフィードバックする。	6 カ月 ～ 12 カ月
2	35	非常ベルが作動した際の復旧方法や防災用設備の用途について定期的に確認しなければ忘れてしまい、有事の際に迅速な対応ができない。	避難訓練とは別に全職員に対し、受信盤の操作方法や器具の仕組みの習得を図る。	個別または少人数ずつで防火管理者や責任者から演習を受け、最終的に職員全員が習得する。	6 カ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。